

## 「学びの指標」アンケートの集計結果および考察

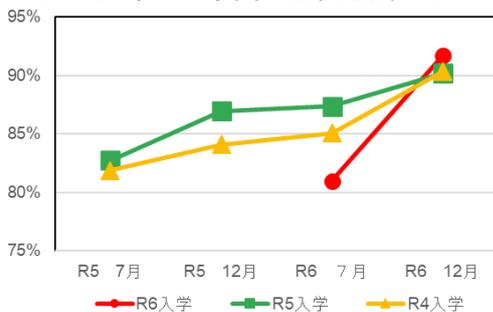
### ○アンケート全体の考察

- ・「そう思う」「どちらかというと思う」の肯定的回答のポイントが、すべての学年において、多くの質問項目で増加傾向にある。また、高い水準を維持している項目がある。  
→ 各教科等の授業、あさひのラーニングの授業、あさひのプロジェクトの授業において、これらの項目を生徒が意識して取り組んでいる。
- ・1学年は、ほとんどの項目においてポイントが上昇した。  
→ あさひのラーニングやあさひのプロジェクトの授業において、生徒が意識して取り組み始めている。
- ・2学年は、科学的リテラシー・自分軸・回復力のポイントが減少した。  
→ あさひのプロジェクトの活動において、社会課題(ニーズ)を捉える中で、見いだした社会課題(ニーズ)の解決方法を発案することの難しさを経験している。
- ・3学年は、1・2学年と比べて、市民性・自己効力感・創造性において、ポイントが大きく増加した。  
→ 捉えた社会課題(ニーズ)の解決方法を発案することの難しさとともに、やりがいも実感している。

### イ 批判的思考力 (多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと)

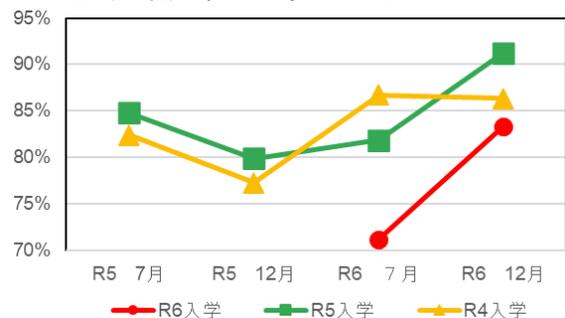
#### 批判的思考力

(10) 判断をくだす際には、客観的な態度を心掛け、できるだけ多くの事実や証拠を調べる



#### 論理的思考力

(9) 目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げて考えている



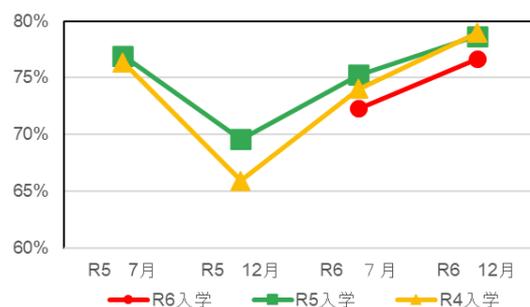
#### 科学的リテラシー

(4) 実験や観察の結果を、明らかにしたいことに合わせて、図やグラフなどを用いて客観的に分析し、自分の主張の証拠を示すことができる



#### 数学的リテラシー

(5) 生活において、数学的推論によって得られた結果に基づいて合理的に判断することができる



<考察>

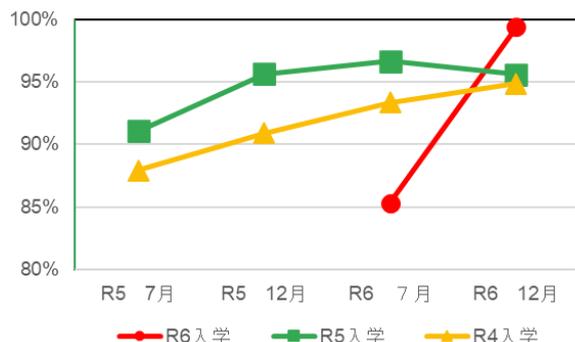
- すべての学年で、多くの項目においてポイントが増加した。
  - 各教科等の授業、あさひのラーニングの授業、あさひのプロジェクトの授業において、これらの項目を生徒が意識して取り組んでいる。
- 3学年は、(9) 論理的思考力のみ大きな変化はなかった。
  - あさひのプロジェクトの活動において、社会課題（ニーズ）を捉えたり、解決方法を発案したりすることの難しさも実感した。
- 2学年は、(4) 科学的リテラシーのみ、ポイントが減少した。
  - 各教科等の授業が進むにつれて、身に付けた知識・技能を活用して思考・判断・表現する機会が増え、その難しさを経験している。
- 1学年は、(10) 批判的思考力と(9) 論理的思考力のポイントが大きく増加した。
  - 特に、あさひのラーニングやあさひのプロジェクトの授業において、生徒が意識して取り組み始めている。

**ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力**

(自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする事)

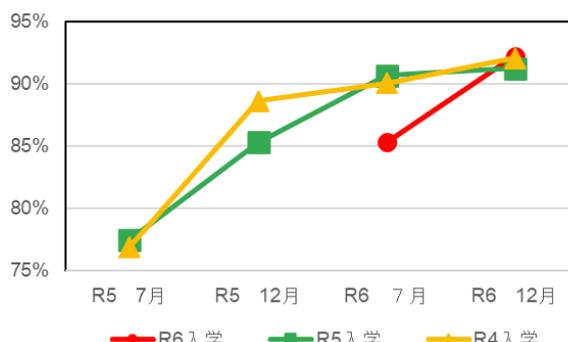
自分軸

(1) 自分なりの価値観や考え方をもっている



自己肯定感

(3) 自分にはよいところがあると思う



<考察>

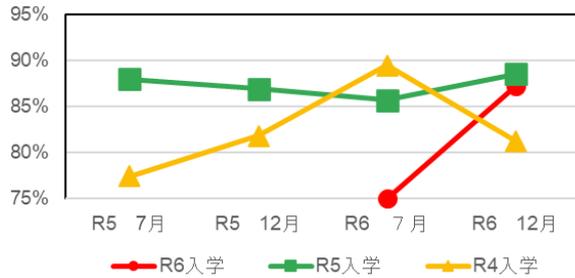
- すべての学年で、ポイントが増加傾向にあり、高い水準を維持している。
  - あさひのラーニングやあさひのプロジェクトの学習により、(3) 自己肯定感のポイントが大きく増加している。チームやグループによる活動が、自己肯定感の向上に影響を与えている。
- 2～3学年は、(1) 自分軸のポイントがやや減少した。
  - 多様な他者とのかかわりによって、自分なりの価値観や考え方が揺らいだり、大きく変わったりする経験をしている。特に、2年生は社会体験学習による経験も影響している。
- 1学年は、(1) 自分軸がほぼ 100%に近いポイントに増加した。
  - あさひのラーニングやあさひのプロジェクトの授業において、生徒が自分の考えをもって取り組み始めている。

## ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力

(自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする事)

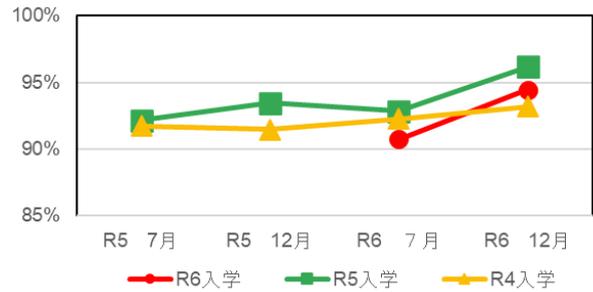
### コミュニケーション能力

(7) 正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして合意形成・課題解決することができる



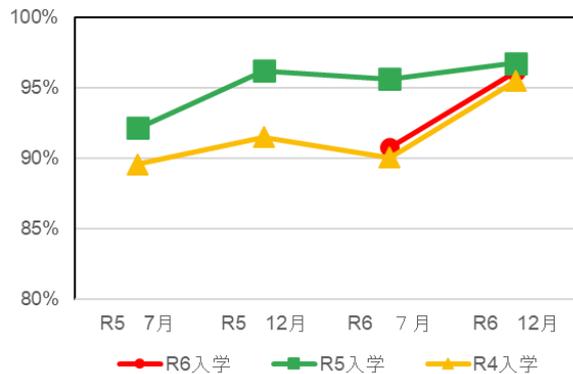
### コミュニケーション能力

(8) 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる



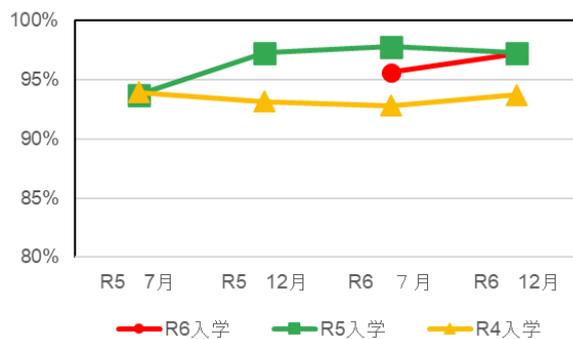
### 協働性

(14) 自分とは異なる意見や価値を尊重している



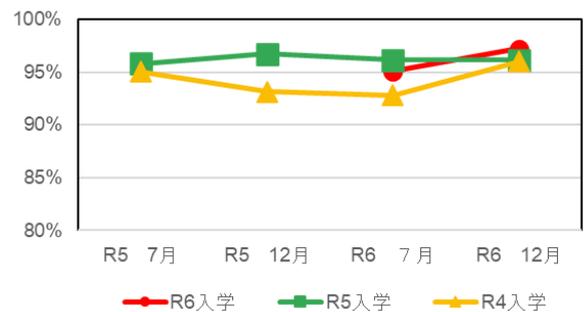
### 共感性

(27) 人の気持ちを分かろうとしている



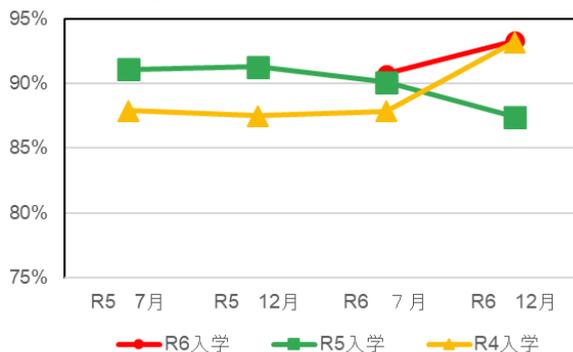
### 共感性

(28) 自分と違う意見や考え、気持ちも大切にしている



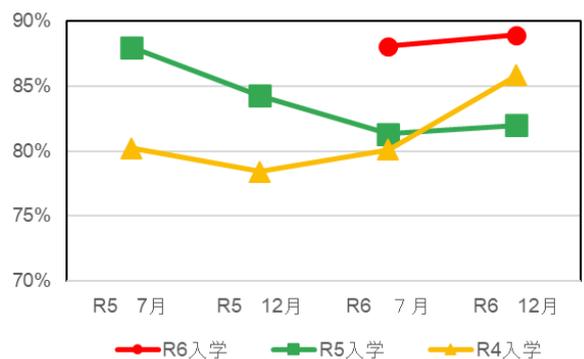
### 回復力

(15) 何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何を改善すればよいか考えている



### 回復力

(16) 失敗してもあきらめずに方法を変えてもう一度挑戦している



<考察>

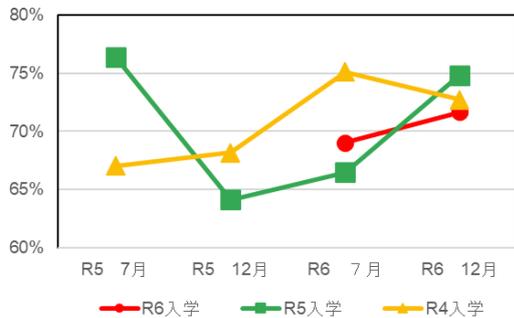
- ・すべて学年で、多くの項目においてポイントが増加した。
  - 各教科等の授業、あさひのラーニングの授業、あさひのプロジェクトの授業において、これらの項目を生徒が意識して取り組んでいる。
- ・3学年は、(7) コミュニケーション能力のみ、ポイントが減少した。
  - あさひのプロジェクトの活動において、社会課題（ニーズ）を捉える中で、見いだした社会課題（ニーズ）の解決方法を発案することの難しさを経験している。
- ・2学年は、(15) 回復力のみ、ポイントが減少した。
  - 各教科等の授業が進むにつれて、身に付けた知識・技能を活用して思考・判断・表現する機会が増え、その難しさを経験している。
- ・1学年は、(7) コミュニケーション能力のポイントが大きく増加した。
  - あさひのプロジェクトの授業におけるチームごとの活動の経験が影響している。

**ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力**

(自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとするたりすること)

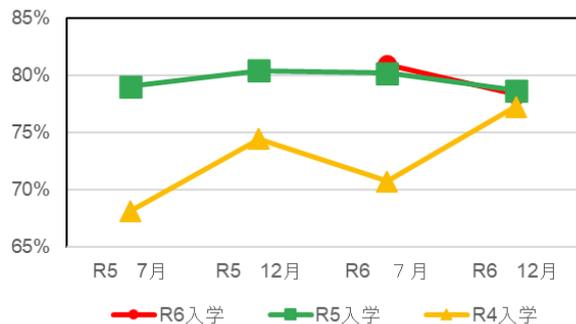
**市民性**

(21) 日本や世界で起こっている諸問題について、自分なりの考えをもっている



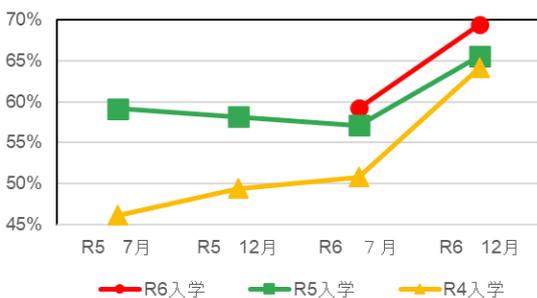
**市民性**

(23) 社会をよりよくするため、自分は社会における問題の解決に関与したいと思う



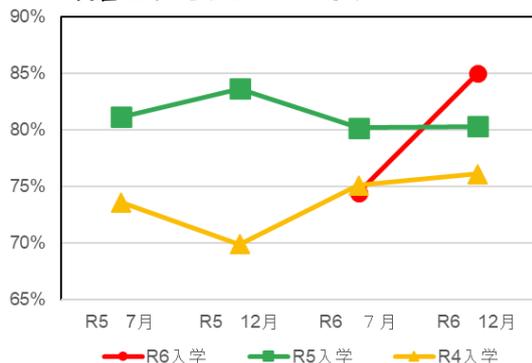
**自己効力感**

(26) 自分の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれないと思っている



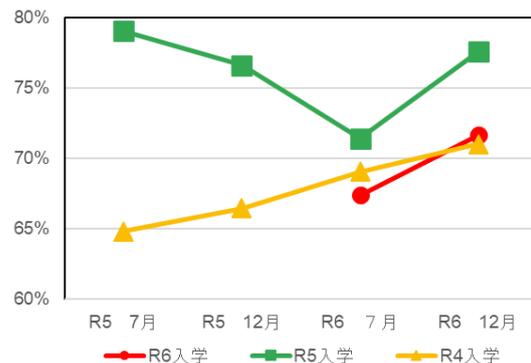
**創造力**

(11) 常識や前例にとらわれずに、学習や仕事の手順や方法に問題意識をもち、自分なりの工夫や改善を加えることができる



**創造力**

(12) 常識にとらわれずに創造的に考え、新たなアイデアを生み出せる



## <考察>

- ・すべて学年で、多くの項目においてポイントが増加した。特に、(26) 自己効力感のポイントが同程度増加した。
  - 各教科等の授業、あさひのラーニングの授業、あさひのプロジェクトの授業において、これらの項目を生徒が意識して取り組めていたり、それらを実感したりしている。
- ・3学年は、(21) 市民性のポイントが減少したが、(23) 市民性のポイントは増加した。また、(26) 自己効力感のポイントが大きく増加した。
  - あさひのプロジェクトの活動において、捉えた社会課題（ニーズ）の解決方法を発案することの難しさとともにやりがいも実感している。
- ・2学年は、(21) 市民性と(12) 創造性のポイントが大きく増加した。
  - あさひのラーニングやあさひのプロジェクトの授業において、社会課題（ニーズ）を捉えたり、捉えようとしていたりしている。また、「デザイン思考」を活用した活動を経験したことで、アイデア発想することに対する意識が向上している。
- ・1学年は、(23) 市民性のポイントが減少した。
  - あさひのプロジェクトの活動において、社会課題（ニーズ）を捉える中で、見いだした社会課題（ニーズ）の解決方法を発案することの難しさを経験している。

## ○学びの指標とは

新しい「学びの指標」は、教科・科目等の学びをはじめ、日々行われる学びの総体の中で、生徒一人ひとりがどのような状態にあるかをみるものです。生徒は、質問に答える形で、他の生徒との比較ではなく、自分自身の状態そのものを見つめ、自己を認識します。学校・教員は、その認識を受け止め、受容し、支援します。その上で、生徒の変容や成長を見逃さず、さらに支援を継続していきます。従って、すべての生徒がすべての面において同じ到達度を目指す必要はなく、個人差や凸凹があってもよい、むしろあるのが当然だ、と考えています。

また、新しい「学びの指標」は、各学校において、生徒一人ひとりが真の意味で大切にされ、生徒が生き生きと学ぶことのできる空間になっているかを検証したり、学校教育目標や「3つの方針」\*の妥当性・実効性の検証に用いたりするとともに、教育活動や指導の改善・充実に向けた検討にも活用します。

「学びの指標」は、導入すること自体が目的ではありません。ここに示した例や他校での実践などを参考に、**各学校が、生徒・保護者とともに、不断の見直しや研究、創造的な取組を行い、理念をよりよい形で具現化していくことが必要です。**また、生徒が卒業後に様々な路に進むことを考えれば、この新しい「学びの指標」が学校に閉じるのではなく、県内の企業・大学関係者などをはじめとする県民のみなさんと、対話等を通じて、恒常的にその理念や実際の取組などについて共有を図っていくことも重要になります。

これら様々な取組を通じて、いのちや人権、努力や個性等が真に大切にされる学校・社会を実現していきたいと考えています。

\* 「3つの方針」：各校が課程別に策定している「生徒育成方針」、「教育課程編成・実施方針」、「生徒募集方針」のこと。

※長野県教育委員会『長野県立中学校・高等学校 新しい「学びの指標」』（2020）  
1 考え方（理念）より引用